

施策名：構造改革の更なる加速

事業名	担当課・室名	ページ
水田農業構造改革推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 6
人・農地プラン推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 6
農地中間管理推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 6
農地集積・集約化支援事業	農地活用・集落営農課	1 / 6
米政策転換対応型水田畑地化推進事業	農地活用・集落営農課	2 / 6
水田畑地化露地野菜産地形成促進事業	園芸振興課	2 / 6
おおいた和牛流通促進対策事業	畜産振興課	2 / 6
肉用牛競争力強化対策事業	畜産技術室	2 / 6
肉用牛生産基盤拡大支援事業	畜産技術室	3 / 6
肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業	畜産技術室	3 / 6
繁殖雌牛生産能力向上対策事業	畜産技術室	3 / 6
第12回全国和牛能力共進会対策事業	畜産技術室	3 / 6
飼料コスト低減支援事業	畜産技術室	4 / 6
木材生産コスト低減推進モデル事業	林務管理課	4 / 6
原木中間集積地整備事業	林産振興室	4 / 6
主伐・再造林システム構築事業	森林整備室	4 / 6
養殖マグロ成長産業化推進事業	漁業管理課	5 / 6
ヒラメ陸上養殖生産振興事業	水産振興課	5 / 6
浅海養殖推進事業	水産振興課	5 / 6
内水面漁業振興事業	水産振興課	5 / 6
水産資源回復強化事業	水産振興課	6 / 6
スマート農業普及拡大事業	地域農業振興課	6 / 6
園芸産地スマート化推進事業	園芸振興課	6 / 6
I C T活用スマート畜産体制整備事業	畜産振興課	6 / 6

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
1	水田農業構造改革推進事業 (H25 ~) 農地活用・集落営農課 農業者の所得向上と経営安定を支援し、食料自給率の向上をめざした水田農業の構造改革の実現を図るため、県及び地域段階に設置する農業再生協議会に対する活動支援・指導と、国の経営所得安定対策等を推進する。	①地域農業再生協議会の運営等に要する経費の補助 175,107 ②経営所得安定対策等の制度や事務処理方法等の周知 3,939	市町農業再生協議会担当者会議の開催回数 [回]	目標値	3	3	3	主食用水稲作付面積 [ha]	目標値	22,936	22,686	20,240	A
				実績値	3	3	—		実績値	20,600	20,400	—	
				達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	110.2%	110.1%	—	
				目標値					事業の成果・今後の方針				
				実績値					地域農業再生協議会に対し、制度内容や各種申請の事務処理方法などの周知を行い、国の経営所得安定対策等の取組を推進した。また、各市町ごとに主食用水稲作付面積の目標値を提示し、地域での協議等を行うことで作付面積については、生産の目安以下を達成することができた。引き続き、市町および地域農業再生協議会と連携して、経営所得安定対策等を推進する。				
達成率				目標値									
実績値				実績値									
達成率				達成率									
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
予算	173,999	179,601	183,116										
決算	173,077	178,038	—										

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
2	人・農地プラン推進事業 (H24 ~) 農地活用・集落営農課 集落・地域での徹底的な話し合いによる地域農業の展望を作成し力強い農業構造を実現していくため、市町村が取り組む「人・農地プラン」の作成・見直しを支援する。	①人・農地プランの見直し支援事業 1,000	市町村等説明会の開催数 [回]	目標値	5	5	5	実質化済みのプラン数 [プラン]	目標値		200	400	A
				実績値	5	12	—		実績値		286	—	
				達成率	100.0%	240.0%	—		達成率		143.0%	—	
				目標値					事業の成果・今後の方針				
				実績値					令和元年度から地域が話し合いの熟度を高め、中心となる経営体を核とした将来の地域農業のあり方をより明確にするプランの「実質化」に向けた取組を始め、286プランを「実質化」することができた。 令和2年度には、多くの地域でこうした取組を市町村と連携しながら支援することで概ね400プランの「実質化」を目指す。 ※実質化:①アンケートの実施、②現状把握、③農地の集約化に関する将来方針の3要件を満たす、実効性をもった、人・農地プランのこと				
達成率				目標値									
実績値				実績値									
達成率				達成率									
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
予算	1,002	1,000	3,321										
決算	772	1,000	—										

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
3	農地中間管理推進事業 (H26 ~ R5) 農地活用・集落営農課 担い手への農地集積と集約化により、農業の競争力強化に向けた生産コストの削減を図るため、農地の中間的な受け皿である農地中間管理機構の運営を支援する。	①農地中間管理機構に対する活動経費の補助 125,710 ②農地の出し手に対する機構集積協力金の交付 28,000 ③農地の売買支援に要する経費の補助 16,847	農地中間管理事業に係る市町村等説明会の開催回数 [回] 機構集積協力金を活用した市町村数 [市町]	目標値	10	10	10	機構を活用した集積面積 [ha]	目標値	300	300	300	A
				実績値	12	20	—		実績値	585	—		
				達成率	120.0%	200.0%	—		達成率	195.0%	140.7%	—	
				目標値	17	13	13		事業の成果・今後の方針				
				実績値	16	14	—		令和元年度の農地中間管理事業による集積面積は422haとなり、目標を上回った。また、事業開始(平成26年度)以降の機構を活用した集積面積の累計は、3,445haとなった。 さらなる農地の流動化を推進するため、人・農地プランの実質化に取り組む地区や基盤整備事業の実施地区、大規模園芸団地の推進地区等を中心に、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化に取り組む。また、新規就農者や企業の参入を促進するため、農地中間保有制度の活用を図る。				
達成率	94.1%	107.7%	—	目標値									
実績値				実績値									
達成率				達成率									
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
予算	202,270	184,641	445,875										
決算	198,608	181,705	—										

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
4	農地集積・集約化支援事業 (H30 ~ R2) 農地活用・集落営農課 水田の畑地化等の推進を図るため、農地の出し手と受け手との間のマッチングの取組を支援するとともに、中山間地域で集積を推進する経営体に対して交付金を交付する。	①農地集積・集約化した担い手に対する交付金の交付 19,000 ②農地の出し手と受け手を結びつけるマッチングの取組支援 1,900	農地中間管理機構駐在員による担い手訪問数 [回] 市町村説明会の開催数 [回]	目標値	300	300	300	担い手への集積・集約が進んだ農地面積 [ha]	目標値	230	230	230	C
				実績値	1,520	2,138	—		実績値	203	186	—	
				達成率	506.7%	712.7%	—		達成率	88.3%	80.9%	—	
				目標値	5	5	5		事業の成果・今後の方針				
				実績値	12	12	—		集落営農法人や企業参入等の大規模集積が減少し、個人の担い手が主な集積対象となっており、実績が伸びにくい状況となっていることから、集積面積は186haに留まった。 さらなる農地の流動化を推進するため、人・農地プランの実質化に取り組む地区や基盤整備事業の実施地区、大規模園芸団地の推進地区等を中心に、農地中間管理事業を活用した担い手への集積・集約化に取り組む。また、引き続き、地域農業経営サポート機構を中心に本事業の活用を図り、農地の出し手と受け手のマッチングを推進する。				
達成率	240.0%	240.0%	—	目標値									
実績値				実績値									
達成率				達成率									
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度										
予算	21,850	20,900	43,000										
決算	20,067	20,578	—										

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
5	米政策転換対応型水田畑地化推進事業 (H29 ~ R1) 農地活用・集落営農課 平成30年からの米政策の見直しに対応するため、水田の畑地化による園芸品目の導入や水田農業の低コスト化に向けた取組を支援する。	①水田畑地化園芸品目導入のための支援 3,465 ②水田畑地化に向けた農地情報の収集・整理、推進地区の選定等 3,254 ③農地の出し手に対する水田畑地化集積協力金の交付 2,000	ゾーニング推進地区	目標値	6	6		畑地化による園芸品目の導入面積 [累計：ha]	目標値	100	200		A
			[地区]	実績値	10	7			実績値	140	247		
				達成率	166.7%	116.7%			達成率	140.0%	123.5%		
			県・振興局プロジェクトチームの合同推進会議の開催回数	目標値	12	12		事業の成果・今後の方針					
			[回]	実績値	12	12		振興局ごとに設置した水田畑地化PTの活動強化を図り、まとまった畑地化用農地の確保に向けたゾーニングに取り組んだほか、収集した農地情報や担い手情報に基づくマッチング活動を充実した結果、目標を上回る247haの畑地化が進んだ。 平成29年度から県主導で推進してきた水田畑地化は、令和2年度からは市町村が主体となった「園芸団地づくり計画」にもとづき、関係機関が一体となって推進するため当該事業は終了し、「大規模園芸産地形成促進事業」を実施する。					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値				目標値					
予算	10,185	9,311		実績値				実績値					
決算	7,091	7,664		達成率				達成率					

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
6	水田畑地化露地野菜産地形成促進事業 (R1 ~ R1) 園芸振興課 水田の畑地化による園芸品目の導入を促進するため、米・麦・大豆主体の中規模経営体の露地野菜への転換を支援する。	①米から露地野菜への生産転換に係る種苗、肥料代等への支援 5,942 ②耕盤層(不透水層)の破壊による営農排水の施工支援 265	水田畑地化の担い手調査回数	目標値		4		水田への高収益作物の導入面積 [ha]	目標値		100		A
			[回]	実績値		4			実績値		107		
				達成率		100.0%			達成率		107.0%		
			研修会の開催回数	目標値		1		事業の成果・今後の方針					
			[回]	実績値		1		水稲から露地野菜への生産転換に係る種苗、肥料代等の経費補助や、営農排水の施工支援により、大規模転換時の初期費用の負担軽減を行い、目標を上回る水田へ高収益作物を導入できたことで、大規模露地野菜産地の形成を促進させることができた。 令和2年度からは、「園芸団地づくり計画」の推進などにより、水田畑地化を含めた大規模な園芸産地の形成を加速させるため、「大規模園芸産地形成促進事業」を実施する。					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率		100.0%		目標値					
予算		6,493		実績値		2		実績値		2			
決算		4,799		達成率		100.0%		達成率		100.0%			

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
7	おおいた和牛流通促進対策事業 (H28 ~ R3) 畜産振興課 新たなリーディングブランド「おおいた和牛」の認知度向上と流通拡大を図るため、戦略的なPR対策を実施する。	①PR会社への委託による県内外での効果的なPR事業の展開 38,837 ②サポーターショップが実施するイベントや販促資材作成等に対する支援 7,000 ③畜産マーケットによる流通促進対策 4,043	新ブランドによるPRイベントの開催回数	目標値	4	4	4	取扱認定店舗数 [累計：店舗]	目標値	270	310	370	A
			[回]	実績値	4	8	-		実績値	298	348	-	
				達成率	100.0%	200.0%	-		達成率	110.4%	112.3%	-	
			商談回数	目標値	72	72	72	事業の成果・今後の方針					
			[回]	実績値	96	92	-	ラグビーワールドカップ2019大分開催の機会等を活用し、「おおいた和牛」のPRを大々的に展開した結果、消費者等への浸透が図られ、取扱認定店舗は県内外で50店舗増加した。特に県外での取扱量(公社卸分)は16店舗のサポーターショップを中心に55,548kgに達し、昨年度比11%増となった。 引き続き、おおいた和牛の旗艦店であるサポーターショップの拡大や情報発信等を行い、おおいた和牛の認知度向上と流通拡大に努める。					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	133.3%	127.8%	-	目標値	10	17			
予算	61,611	56,535	47,781	実績値	10	17		実績値	10	17			
決算	61,003	54,605	-	達成率	100.0%	100.0%		達成率	100.0%	100.0%			

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
8	肉用牛競争力強化対策事業 (H28 ~ R3) 畜産技術室 持続可能な肉用牛生産基盤の確立に向け、規模拡大を目指す経営体が行う畜舎などの整備に要する経費に対し助成する。	①規模拡大に取り組む法人等の牛舎等の施設整備などに対する助成 180,000 ②既存農家の施設整備、牛の発情発見システム等の機器整備に対する助成 15,895	クラスター計画の取組戸数	目標値	4	2	1	本事業による増頭数 [頭]	目標値	1,148	1,270	1,509	A
			[戸]	実績値	4	2	-		実績値	1,472	1,817	-	
				達成率	100.0%	100.0%	-		達成率	128.2%	143.1%	-	
			事業説明会の開催回数	目標値	12	12	12	事業の成果・今後の方針					
			[回]	実績値	17	20	-	高齢化による規模縮小、生産基盤の脆弱化が進む中、施設整備や省力化機器の整備に対し支援したことで、増頭数は目標を上回り、繁殖雌牛728頭、肥育牛1,089頭の増頭に繋がった。 今後も、施設整備の支援を行うことで、持続可能な肉用牛生産基盤の確立を図る。 (翌年度繰越額 117,007千円)					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	141.7%	166.7%	-	目標値					
予算	50,197	196,113	372,238	実績値				実績値					
決算	49,064	14,916	-	達成率				達成率					

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
9	肉用牛生産基盤拡大支援事業 (H29 ~ R5) 畜産技術室 肉用牛の生産基盤を強化するため、繁殖・肥育農家の増頭につながる取組等を支援する。	①大分県畜産公社による肥育牛素牛預託及び飼育管理預託方式に対する支援 1,491,316 ②繁殖雌牛の増頭を行う繁殖農家に対する支援 64,800 ③オレイン酸含有率の向上に取り組む農家への技術指導 3,801	肥育重点農家への個別事業推進	目標値	20	20	20	繁殖雌牛の飼養頭数	目標値	17,500	17,600	17,780	B
				実績値	20	22	—		実績値	16,800	17,200	—	
				達成率	100.0%	110.0%	—	[累計：頭]	達成率	96.0%	97.7%	—	
				増頭推進会議の開催回数	目標値	25	25	25	事業の成果・今後の方針				
				実績値	28	35	—	廃業による繁殖雌牛の縮小や肥育経営環境の悪化から、生産基盤脆弱化が懸念されるため、ゲノム育種価を活用した産肉能力の高い繁殖雌牛増頭に対する支援や大分県畜産公社が行う肥育牛預託貸付制度の原資の貸付を行った結果、飼養頭数の増加に繋がった。 令和2年度は預託原資の増額を行い、おおいた和牛の増頭加速に努める。					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値	3,644	3,644	3,644						
予算	1,575,005	1,559,917	2,064,948	実績値	3,128	3,616	—						
決算	1,570,978	1,528,617	—	達成率	85.8%	99.2%	—						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
10	肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業 (H30 ~ R2) 畜産技術室 畜産農家の高齢化が進む中、おおいた和牛の出荷頭数を確保するため、肉用牛繁殖経営体における新規就農の促進や、50頭規模以上の基幹的経営体を中心とした生産体制への転換を図る。	①50頭以上の経営計画を有する新規就農者の施設・省力化機器整備に対する助成 15,973 ②肉用牛ヘルパーの活用やキヤトルステーションの県域展開の検討による作業外部化の推進 2,791 ③新規就農者のヘルパー活用に対する助成 67	新規就農者への個別指導戸数	目標値	12	12	12	就農後5年目に50頭規模を目指す新規繁殖農家数	目標値	5	10	15	A
				実績値	19	13	—		実績値	5	10	—	
				達成率	158.3%	108.3%	—	[累計：戸]	達成率	100.0%	100.0%	—	
				作業外部化検討会の開催回数	目標値	12	12	12	事業の成果・今後の方針				
				実績値	13	29	—	牛舎整備や肉用牛ヘルパーの利用などへの助成により新規就農者の経営安定等が図られ、就農後5年目に50頭規模を目指す新規繁殖経営体数は目標を達成し、後継者の確保に繋がった。 今後は、空き牛舎の改修も支援対象とし、初期投資軽減を図るとともに、定休型ヘルパー要員確保支援等により、作業の外部化を支援する。					
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値	10	10	10						
予算	14,170	19,065	29,433	実績値	10	12	—						
決算	13,215	18,069	—	達成率	100.0%	120.0%	—						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
11	繁殖雌牛生産能力向上対策事業 (R1 ~ R3) 畜産技術室 県内子牛市場の活性化による生産者の所得向上を図るため、県外高能力牛を活用した県産種雄牛の造成に取り組むとともに、ゲノム育種価を活用した高能力繁殖雌牛の育成を支援する。	①高能力雌牛の購入 8,681 ②ゲノム育種価検査料の助成 7,200 ③ゲノム育種価評価を活用した人工授精経費の助成 6,000 ④高能力種雄牛の精液の購入 2,970	本事業による人工授精頭数	目標値		1,000	1,000	高能力雌牛保留頭数	目標値		750	750	D
				実績値		1,220	—		実績値		486	—	
				達成率		122.0%	—	[頭]	達成率		64.8%	—	
				事業説明会実施日数	目標値		10	10	事業の成果・今後の方針				
				実績値	20	—	ゲノム育種価という新技術を活用する新たな取組のため、畜産農家に対する事業内容等の説明と農家の理解を得るのに期間を要し、高能力雌牛の保留頭数は目標の6割ほどにとどまった。 令和2年度は、関係機関・生産者に対し、事業説明の機会を増やすとともに、関係者の理解を深め、保留頭数の増加を図る。						
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値		1,500	1,500						
予算		25,681	42,395	実績値		368	—						
決算		20,319	—	達成率		24.5%	—						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
12	第12回全国和牛能力共進会対策事業 (H30 ~ R4) 畜産技術室 令和4年に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会において、すべての区に出品し、第11回大会以上の優秀な成績を収めることで、「おおいた和牛」の銘柄確立を図る。	①出品モデル肥育牛の造成 8,382 ②生産者意欲の高揚と出品対策強化を図る協議会の設立 334	性別別精液製造本数	目標値		150		肉牛区授精頭数 ※令和2年度：臨時市場出荷頭数[頭]	目標値		250	100	D
				実績値		150			実績値		187	—	
				達成率		100.0%		[頭]	達成率		74.8%	—	
				県推進協議会等開催回数	目標値		6	6	事業の成果・今後の方針				
				実績値	13	—	肉牛区の人工授精時期と選定した産肉能力の高い繁殖雌牛の妊娠状況が合わなかった結果、肉牛区の授精頭数は目標を下回った。 令和2年度は肉牛区の候補産子の管理と出品候補牛の選定や出品体制の確保に向けての協議を関係機関と実施し、出品対策の強化を図る。						
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値		12	7						
予算	4,582	8,716	3,388	実績値		24	—						
決算	4,440	8,391	—	達成率		200.0%	—						

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価			
13	飼料コスト低減支援事業 (R1 ~ R3) 畜産技術室 畜産農家の生産コストを削減するため、飼料用米を使ったSGSの供給体制強化を支援するとともに、使用促進に向けた広域流通体制を構築する。	①SGS製造拠点と県内各保管倉庫をつなぐ広域流通網の構築実証 2,300 ②SGS調整機械のレンタル料の助成 800	SGS生産指導及び研修会回数 [回]	目標値		3	5	SGS廃棄率 [％]	目標値		14.0	10.0	A			
				実績値		2	—		実績値		5.1	—				
				達成率		66.7%	—		達成率		163.6%	—				
				区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値				事業の成果・今後の方針 SGS調整機械の導入を支援したことで生産技術が向上し、SGSの廃棄率が低下した。また、大分県SGS広域流通推進協議会を設立し、関係機関とSGSの生産や供給、利用等について協議を重ねたことで、利用農家は14戸増加した。引き続き、県内のSGS広域流通体制の構築に向けて、関係機関と連携しSGS生産技術向上及び供給体制強化への対策を進める。 ※SGS：籾米を乾燥させず、そのまま発酵させた飼料。乾燥作業が省力でき、低コスト化が期待できる。				
				予算		3,828	4,304	実績値		4	—	達成率		133.3%	—	
決算		3,104	—	達成率												

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価			
14	木材生産コスト低減推進モデル事業 (H29 ~ R1) 林務管理課 人工林の主伐・再造林を促進するため、木材搬出コストの低減に向けた路網の部分改良を支援する。	①既存作業道の簡易な路網改良により搬出コストを削減し、主伐後の再造林を可能とする主伐推進モデル団地の実証・普及に要する経費に対する補助 11,900	主伐推進モデル団地数 [箇所]	目標値	20	20		主伐推進モデル団地主伐生産性 [㎡/人日]	目標値	12.5	13.0		B			
				実績値	13	13			実績値	11.9	11.9					
				達成率	65.0%	65.0%			達成率	95.2%	91.5%					
				区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値				事業の成果・今後の方針 これまで、生産性を意識せず主伐を行っていた認定林業事業体に対し、主伐推進モデル団地の設定による実証・普及を行うため、既存作業道の改良に要する経費について助成した結果、主伐生産性が令和6年度の県目標である12㎡/人・日と同程度の11.9㎡/人・日という成果を得られた。この取組により、当該事業を利用した事業体のコスト意識の向上と75団地にかかる技術的な知見が得られるなど、当初の事業目的を概ね達成したことから、当該事業は終了する。				
				予算	12,232	12,134		実績値				目標値				
決算	11,323	11,718		達成率												

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価				
15	原木中間集積地整備事業 (H30 ~ R2) 林産振興室 素材生産量の増加に対応し、きめ細かな選別が不要な曲がり材を効率的に流通させるため、中間土場の整備に要する経費に対し助成する。	①原木中間集積地の整備に対する助成 29,934 ②原木中間集積地で簡易選別を行うための研修の開催 266	原木中間集積地整備数 [箇所]	目標値	3	3	3	原木供給量 [㎡]	目標値	1,250	45,000	90,000	C				
				実績値	3	3	—		実績値	1,209	39,035	—					
				達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	96.7%	86.7%	—					
				区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	原木選別システム研修への参加者数 [人]	目標値	14	14	14	事業の成果・今後の方針 原木中間集積地の整備に取り組んだが、新型コロナウイルス等の影響により需要側の受入制限があったため、原木供給量は目標を下回った。令和2年度は、原木中間集積地の整備に引き続き取り組むとともに、大規模化・多様化する需要者ニーズに対応するため、市場等が広域で連携して流通の効率化を図る取組を支援する。				
				予算	29,457	30,478	55,778	実績値	31	0	—	目標値					
決算	29,138	29,627	—	達成率	221.4%	0.0%	—										

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価				
16	主伐・再造林システム構築事業 (H30 ~ R2) 森林整備室 人工林資源の充実に伴う主伐の拡大と、伐採後の確実な再造林の実施のため、主伐と再造林の一貫作業に取り組む意欲のあるモデル的事業体を育成するとともに、再造林に必要なスギ挿し木苗の増産を図ることで、伐採と再造林の施業集約化による低コスト資源循環型林業を推進する。	①全木集材と再造林の一貫作業に対する助成 30,700 ②コンテナ苗等の生産設備や採穂作業、採穂園造成などに対する助成 11,606	スギ挿し木苗の生産量 [千本]	目標値	1,300	1,300	1,350	低コスト再造林面積全体に占める一貫作業の実施割合 [％]	目標値	4.0	4.0	4.0	A				
				実績値	1,105	1,178	—		実績値	4.4	7.7	—					
				達成率	85.0%	90.6%	—		達成率	110.0%	192.5%	—					
				区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	一貫作業システム導入支援事業の実施事業体数 [者]	目標値	5	5	5	事業の成果・今後の方針 苗木の増産支援等により、低コスト再造林面積731haのうち、56haにおいて一貫作業による主伐・再造林が実施できた。引き続き、事業体の育成と、システムの普及による経営基盤強化を図りつつ、安定的な苗木供給体制を構築していく。 (翌年度繰越額 30,700千円)				
				予算	114,815	43,341	70,670	実績値	5	6	—	目標値					
決算	23,117	12,430	—	達成率	100.0%	120.0%	—										

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
17	養殖マグロ成長産業化推進事業 (R1 ~ R3) 漁業管理課	①新型養殖資材の実証・養殖手法確立のための調査 21,603	赤潮調査回数	目標値		16	16	新型生け簀における赤潮被害率	目標値		10.0	10.0	A
				実績値		16	—		実績値		0.0	—	
	養殖マグロの安定供給体制を確立するため、赤潮被害を軽減する生け簀開発を支援するとともに、ICTを活用した観測装置の設置により海洋環境のモニタリングを強化する。	②深層型養殖生け簀開発に対する助成 16,556	[回]	達成率		100.0%	—	[％]	達成率		200.0%	—	
					マグロ赤潮被害調査回数	目標値			4	4	事業の成果・今後の方針		
	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績値		7	—	赤潮被害を軽減する深層型生け簀の開発支援やICTを活用した海洋環境のモニタリングにより、赤潮発生水域よりも深層でのマグロの遊泳が実証され、赤潮被害の回避に繋がるデータが得られた。なお、令和元年度は十数年に一度の赤潮未発生年であったため、従来型生け簀の赤潮被害率(30%程度)と比較した具体的な低減率は、令和2年度以降に実証していく。 また、令和2年度には、カキの水質浄化能力を活用した、赤潮発生抑制効果の検証にも取り組む。				
予算		38,159	39,572	達成率		175.0%	—						
決算		36,798	—	マグロ赤潮被害対策検討会開催回数	目標値		2	2					
				実績値		2	—						
				達成率		100.0%	—						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
18	ヒラメ陸上養殖生産振興事業 (H29 ~ R1) 水産振興課	①地下海水を用いた赤潮被害防除体制の整備に対する補助 6,666	地下海水利用施設補助件数	目標値		5		かぼすヒラメの生産量	目標値	65	71		B
				実績値		1			実績値	66	66		
	ヒラメ養殖業の生産振興を図るため、安全安心な生産出荷体制を強化するとともに、生産効率を向上させるため、緑色LED照射養殖モデルのマニュアルを作成する。また、赤潮の影響を受けない地下海水利用施設の整備を行う。	②緑色LED養殖モデル構築のための養殖現場での検証試験 3,001	[件]	達成率		20.0%		[t]	達成率	101.5%	93.0%		
					緑色LEDを使用したヒラメ養殖モデルの導入漁家数	目標値	1		1	事業の成果・今後の方針			
	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績値	1	1		生産性向上のために、最適な照度の検証試験を実施し、緑色LED普及のための導入マニュアルを作成した。また「大分県クダ対策ガイドライン」に基づき、導入時と出荷前の検査を全ての生産者が実施し、食中毒の防止を図ったほか、新たな検査手法の導入で、検査精度、スピードが向上した。 養殖モデル及び簡易検査法の普及等の取組により、当初の事業目的を概ね達成したことから当該事業は終了する。				
予算	3,894	11,650		達成率	100.0%	100.0%							
決算	3,868	6,360		種苗導入時及び出荷時の簡易検査の実施養殖業者率	目標値	100.0	100.0						
				実績値	100.0	100.0							
				達成率	100.0%	100.0%							

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
19	浅海養殖推進事業 (H30 ~ R2) 水産振興課	①クルマエビ養殖生産向上を目指した環境モニタリング 3,654	クルマエビ養殖池での連続環境データ取得体制の構築	目標値	1	2	2	アサリ等養殖実証参加生産者及びクルマエビ養殖生産者数	目標値	39	44	55	A
				実績値	1	2	—		実績値	39	44	—	
	浅海地域の漁業者の経営安定を図るため、地域の特性を生かした新たな養殖技術確立するとともに、既存養殖業の安定生産を推進する。	②タイラギ投棄貝を利用した養殖の実用化 2,748	[池]	達成率	100.0%	100.0%	—	[人]	達成率	100.0%	100.0%	—	
					姫島でのタイラギ養殖試験の実施地区数	目標値	2		2	3	事業の成果・今後の方針		
	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績値	2	2	—	タイラギの人工種苗生産については、水産研究部浅海チームも協力した国研究機関による人工受精法の開発が平成30年度に成功した。これを利用してタイラギ着底稚貝の生産に初めて成功し、今後はタイラギ小型投棄貝を活用した養殖実用化に加え、人工種苗による養殖手法の確立も検証していく。また、アサリでは2方式(被覆網養殖、カゴ垂下式養殖)における実証実験を実施し、クルマエビについても養殖地における連続データを取得する等、養殖技術の実証及び生産向上に資する取組が進化した。				
予算	8,454	7,386	7,386	達成率	100.0%	100.0%	—						
決算	8,003	7,386	—	アサリの新たな養殖方式の実証数	目標値	2	2	2					
				実績値	2	2	—						
				達成率	100.0%	100.0%	—						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
20	内水面漁業振興事業 (S53 ~) 水産振興課	①内水面漁協が行うアユ等の増殖経費に対する助成 6,712	増殖事業に取り組む漁協数	目標値	15	15	15	アユ漁獲量	目標値	76,000	76,000	76,000	A
				実績値	15	15	—		実績値	88,377	76,752	—	
	内水面資源の保護・育成及び内水面漁業の振興を図るため、アユ等の増殖経費への助成及び外来魚による食害防除対策指導等を行うとともに、内水面漁協が行う水産物の消費拡大の取組を支援する。	②外来魚駆除等に取り組む漁協に対する指導等 223	[漁協]	達成率	100.0%	100.0%	—	[kg]	達成率	116.3%	101.0%	—	
					外来魚の駆除に取り組む漁協数	目標値	1		1	2	事業の成果・今後の方針		
	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績値	1	1	—	ほとんどの内水面漁協において、アユ等の増殖事業を実施し、大きな水害等が県内で発生しなかったこともあり、目標値を上回るアユ漁獲量となった。また駅館川漁協においては、遮光カゴや人工産卵床によるオオクチバスの稚魚等の駆除を実施した。 今後も引き続き、アユ等の増殖や外来魚による食害防除に取り組み、内水面資源の保護・育成及び内水面漁業の振興を図っていく。				
予算	10,270	7,538	10,972	達成率	100.0%	100.0%	—						
決算	8,132	7,048	—	目標値									
				実績値									
				達成率									

事務事業評価 令和元年度実績

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
21	水産資源回復強化事業 (H29 ~ R1) 水産振興課 水産資源を早急に回復させるため、資源管理の更なる強化に取り組む漁業者の自主的な種苗放流の金額に対し、上乗せ支援を行う。	①漁業者の自主的な種苗放流に対する上乗せ支援 59,843	放流種苗上乗せ数 [千尾]	目標値	4,784	4,732		アワビの漁獲での放流個体の混入率 [％]	目標値	50.0	50.0		A
				実績値	3,792	4,256			実績値	77.0	87.0		
				達成率	79.3%	89.9%			達成率	154.0%	174.0%		
				資源管理措置取組漁協支店数	目標値	24	24			事業の成果・今後の方針			
				実績値	24	24			これまで県下全域における資源管理措置や種苗放流、放流手法の改善等により、放流した種苗の生残率向上と資源造成に取り組み、放流個体を効率的に漁獲サイズまで生育することが可能となった。				
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	100.0%	100.0%		今後は、「資源造成型栽培漁業推進事業」に組み替え、資源管理措置等のさらなる内容強化及び導入推進を実現するため、漁業者に対する経費の上乗せ率を最大130%まで引き上げ、沿岸水産資源の早期回復と沿岸地域の活力向上を図る。					
予算	60,967	60,443		目標値									
決算	56,290	60,443		実績値									
				達成率									

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
22	スマート農業普及拡大事業 (R1 ~ R3) 地域農業振興課 農業の省力化・高品質化を図るため、ICT等の先端技術を活用したスマート農業の実証等に取り組む。	①気象データ収集システムの構築などの効率的推進体制の確立 12,019 ②ドローン画像を活用した生育診断技術などの新技術の研究・開発 1,390 ③自走式リモコン草刈機などの新技術の普及実証 1,308	スマート農業技術研修会の開催回数 [回]	目標値		1	2	スマート農業技術導入経営体数 [経営体]	目標値		270	500	A
				実績値		1	-		実績値		477	-	
				達成率		100.0%	-		達成率		176.7%	-	
				大規模経営に対応した技術の開発取組件数	目標値		2		3	事業の成果・今後の方針			
				実績値		2	-		ドローンを活用した農薬散布技術の実証や研修の開催により、スマート農業技術の導入を啓発した結果、スマート農業技術導入経営体数は増加傾向にある。				
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	100.0%	-		引き続き、技術実証に取り組み、個々の技術の費用対効果を明らかにするとともに、研修会の開催によりスマート農業技術の導入啓発を行うことで、スマート農業技術の普及拡大を進め、農作業の省力化や生産性向上につなげる。					
予算		14,717	7,086	実証圃の設置数	目標値		9	12					
決算		13,865	-	実績値		10	-						
				達成率		111.1%	-						

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
23	園芸産地スマート化推進事業 (H29 ~ R1) 園芸振興課 園芸作物の生産技術高度化による生産性向上を図るため、センサー技術などの活用による栽培環境データの見える化を支援する。	①ハウス内環境モニタリングシステム等のIoT技術を営農集団などが園芸品目へ導入する際の整備費に対する助成 9,682 ②最先端のIoT活用事例を調査するための先進地視察 352	IoT技術の導入品目数 [品目]	目標値	2	2		IoT技術導入件数 [件]	目標値	3	2		A
				実績値	3	2			実績値	3	2		
				達成率	150.0%	100.0%			達成率	100.0%	100.0%		
				先進地視察の実施回数	目標値	2	2		事業の成果・今後の方針				
				実績値	2	2	トマト、アルストロメリアの生産者に対し、ハウス内のモニタリング装置や環境整備装置の設置を支援し、産地機能の高度化が進んだ。						
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	100.0%	100.0%		その他にも、ぶどうの房を作る際の熟練生産者の目線を可視化する「匠の技術の見える化」などの支援により、当初の事業目的を概ね達成したことから当該事業は終了し、今後は「活力あふれる園芸産地整備事業」にて、栽培施設整備と一体的に環境モニタリング装置の設置支援等を行っていく。					
予算	14,484	10,265		スマート技術等の説明会実施回数	目標値	5	5						
決算	13,412	6,851		実績値	5	5							
				達成率	100.0%	100.0%							

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標	達成度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	評価
24	ICT活用スマート畜産体制整備事業 (H29 ~ R1) 畜産振興課 繁殖雌牛の分娩間隔の短縮に向け、繁殖管理クラウドシステムの導入農家数の拡大を図るため、システムのPR等に取り組むとともに、農家の繁殖管理分析などに利用しやすいクラウドシステムの開発を支援する。	①繁殖管理クラウドシステムの新機能追加に対する支援 1,147 ②ICTを活用した生産性向上(分娩間隔の短縮等)に向けた取組への支援 801	クラウドシステム改善のための修正提案件数 [件]	目標値	50	50		繁殖管理クラウドシステム導入農家数 [累計：戸]	目標値	50	100		D
				実績値	137	54			実績値	38	76		
				達成率	274.0%	108.0%			達成率	76.0%	76.0%		
				システム内容説明・PR回数	目標値	300	300		事業の成果・今後の方針				
				実績値	422	1,238	繁殖管理クラウドシステム導入農家数は76戸にとどまったものの、ICT活用による生産性向上の推進が図られた。						
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	140.7%	412.7%		当初の事業目的を概ね達成したことから当該事業は終了するが、畜産におけるICT機器の普及率向上を目指して今後もプロジェクト体制は継続し、広域普及員を始め現地指導機関と協力しながら生産性の向上を図っていく。					
予算	2,948	1,948		目標値									
決算	2,646	1,672		実績値									
				達成率									